

議案1 平成23年度活動報告

東日本大震災こども未来基金（以下、当基金）は、東日本大震災で親（両親または片方の親）をなくした小学生から高校生の子どもたちに学資支援をするため、平成23年4月に任意団体として出発、その後、8月24日には宮城県から特定非営利活動法人（NPO法人）の認定を受け、活動を続けています。今回の総会は、23年度（23年8月から24年3月末まで）のNPO法人としての活動を総括する第1回年次総会となります。

当基金が任意団体として出発したのは23年4月末でした。理事長に就任した高成田享が宮城県女川町の中学校教諭から、震災で親をなくした子どもたちの厳しい状況を聞いたのがきっかけで、こうした子どもたちに支援の手を差し伸べようと、基金を立ち上げて募金活動を始めることにしました。基金の名付け親は、坂東眞理子理事です。

募金活動の原則にしたのが「寄付していただいたお金は、事務経費などに使うことなく、その全額を子どもたちの学資支援に回す」ということで、この方針が多くの人々からの共感を得て、募金額をふやすことができました。

その結果、23年6月初めには、「小学生から高校生までの、両親または一方の親をなくした児童・生徒を対象に、月2万円の学資支援を、高校卒業までの就学期間の最長5年間、支給する」という学資支援の内容を決め、岩手、宮城、福島 の3県の教育委員会を通じて、対象となる児童・生徒のいる小学校・中学校・高校の学校長から応募をしていただきました。

応募期間の23年7月初めまでに、129人からの応募があり、第1回の選定者38人については7月から、第2回の選定者70人については10月から、そして最後は24年1月からは21人に支給を開始、応募者全員に支給ができるようになりました。23年度中の支給総額は1650万円でした。

当基金は、23年8月には、公益財団・信託資本財団の助成団体に認定されました。その結果、企業や個人が当基金を指定して同財団に寄付した場合、同財団が得ている寄付に対する優遇税制措置を受けられる一方、当基金にはその寄付額と同額の助成金を財団から受け取る仕組みができました。

さらに、23年8月24日には、宮城県から特定非営利活動法人（NPO法人）

の認証を受け、任意団体から NPO 法人に衣替えすることになりました。

寄付された方の大部分は個人ですが、企業からの寄付もふえ、ミキプルーンで知られる三基商事からの1000万円をはじめ、ブライツ社、ループス社、タヒボジャパン及び東北タヒボ、第一中央汽船、カーレーサー片山右京さんが率いる「チーム右京」などの企業、パークレイズ銀行の有志、鹿島建設の社内有志の鹿島ボランティアネットワークなどの企業内有志、日本糖尿病教育・看護学会、宗教団体の真如苑、大分県佐伯経済クラブ、宮城県古川地区遊技業組合、洗顔洗心塾、佐々木かをり理事が運営するイー・ウーマンなど、さまざまな団体や組織からの協力をいただきました。熊本県内の企業は当基金の支援組織をつくり、売り上げの一部などを寄付されています。三菱商事の復興助成金も受けました。

また、多くの音楽家がオーストリア・チロル州、東京都杉並区、同調布市、埼玉県さいたま市、同入間市、福岡県行橋市などでチャリティーコンサートを開き、その売り上げなどを当基金に寄付していただきました。関西の音楽家は被災地への応援歌「Colors～絆～」のCDの売り上げを当基金に寄付しています。当基金ではこれをテーマ曲と位置づけ、HPでも紹介しています。

東京の有名料理店のシェフのみなさんが新宿区で定期的に「チャリティー屋台」を開き、そこでの売り上げを当基金に寄付されています。復興支援プロジェクトの「We can do it がんばれ日本」からは、ポストカードなどの売り上げによる寄付金を当基金にも寄付されています。

海外からの募金も広がりました。23年8月には、世界最大手の法律事務所である米ジョーンズ・デイ法律事務所が持つジョーンズ・デイ財団と当基金との間で包括的な協力関係を結ぶ契約書に調印、それにあわせて35万ドル(約2600万円)の寄付をいただきました。昨年末にはジャパン・ソサイエティーから10万ドル(約800万円)の寄付の約束を受け、23年度中に1回目として5万ドルの寄付を受けました。

こうした海外からの寄付を受けやすくするため、23年10月には米ファースト・ハワイアン銀行に当基金の口座を設けることになりました。上述のジャパン・ソサイエティー、米ボワーズ美術館などから24年3月末で、同口座への寄付総額は8万4000ドルになっています。

こうした各方面からの協力で、23年度の募金総額は1億1300万円になりました。

当基金は、活動を多くの人々に知っていただくために、女優の浜美枝さんに顧問に就任していただきました。また、23年10月8日と9日に仙台大学で開催された「東北こども博」では、当基金が実行委員会に参加し、高成田理事長が実行委員会副委員長を務めました。こども博は2日間で約14000人を集め、成功裏に終わりました。ここで募金したお金も基金に寄付していただきました。

24年3月31日から4月1日にかけて、特別プログラムとして、当基金が支援をしている石巻圏の児童・生徒に呼びかけ、1泊2日のディズニー旅行をしました。当基金が支援をしていない兄弟ら7人も含めて19人が参加しました。この旅行では、特別プログラムのスポンサーであるジョーンズ・デイ法律事務所や東源国際、さらには石巻のボランティアら17人がサポーターとして加わり、宿泊先の東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートの協力もあって、楽しい旅行となりました。

組織の運営面では、23年10月に、臨時の理事会・総会を開き、コンプライアンスを強化するために、監事の役割を強化するなど定款を改正するとともに、組織を強化するため、発足当初の7人の理事に加え、新たに5人の理事、また監事を1人ふやすことを決定しました。

なお、当NPO法人は、「正会員」「賛助会員」「友の会」の会員をそれぞれ募集しています。24年3月末では、正会員45人、賛助会員5人、友の会会員5人となっています。